

2026 年度 SDGs 未来都市計画(様式1)

令和〇〇年〇〇月〇〇日

地方自治体の長の氏名

※ 押印は不要

| | |
|---------|--|
| 計画のタイトル | 〇〇〇〇 |
| 応募者 | 〇〇〇〇 |
| 担当者・連絡先 | 担当者の所属 〇〇〇〇 役職・氏名 〇〇〇〇 電話番号 〇〇〇〇 ファックス番号 〇〇〇〇 メールアドレス 〇〇〇〇 |

- ・ **留意事項** ※提出する計画からは本頁を削除すること。

【文量について】

- ・ 簡潔に記載し、**計 30 頁程度**で作成すること。
- ・ 頁数の制限のある項目は留意すること。
- ・ 参考資料については添付不可とする。なお、関係するホームページ URL の記載を妨げないが、必要最小限とすること。

【体裁等について】

- ・ 文字は注記、解説、表中の記述等を除き原則として **11 ポイント以上**の大きさとすること。
- ・ 文章の語尾は「です・ます調」ではなく、「だ・である調」に統一すること。
- ・ 改ページの位置は変更しないこと。また、改ページの文言は削除すること。
- ・ 必要に応じ、図、画像又は定量的なデータを記載すること。
- ・ 計画フォーマットに記載された、各項目名を変更しないこと。

【KPI 等の設定について】

- ・ 調査地点や調査期間、集計等の測定について、現状値と実績値が計画期間中に同一の方法で測定されること。
- ・ 計画期間中の目標である、2. 三側面(経済・社会・環境)の取組の(1)自治体 SDGs の推進に資する取組において設定する指標(KPI)は、2030 年に向けた目標である1. 将来ビジョンの(3)2030 年のあるべき姿の実現に向けた優先的なゴール、ターゲットにおいて設定された KPI に作用する指標であることが前提であり、目標指標においてはその関連性に留意して設定すること。



- 国勢調査や経済センサス等については、計測頻度が毎年ではないこと、また、調査から公表まで時間がかかることから、進捗状況に係る各年推移の把握が困難となる。
必要に応じて、住民基本台帳等の他のデータを活用することや、独自調査の実施を検討すること。また、事業実施により効果が得られる時期と目標指標の測定時期の整合性に留意し、原則として**毎年算出可能な指標**とすること。
- 一義的に定量的な評価が難しい指標についても、原則として定量的な評価ができるような指標の設定に努めること。

【その他】


- 本提案書とSDGs未来都市計画の内容に齟齬がないこと。

< 目次 >

| | |
|---|-----------|
| 1.将来ビジョン | 5 |
| (1) 地域の実態 | 5 |
| (2) 2030年のあるべき姿(目指す将来像) | 5 |
| (3) 2030年のあるべき姿の実現に向けた優先的なゴール、ターゲット | 6 |
| 2.三側面(経済・社会・環境)の取組 | 9 |
| (1) 自治体SDGsの推進に資する三側面の取組 | 9 |
| (2) 統合的取組 | 12 |
| (2-1)統合的取組の事業 | 12 |
| (2-2)統合的取組による相乗効果等(新たに創出される価値) | 13 |
| (3) 情報発信 | 15 |
| (4) 普及展開性 | 16 |
| 3.推進体制 | 17 |
| (1) 各種計画への反映 | 17 |
| (2) 行政体内部の執行体制 | 18 |
| (3) 多様なステークホルダーとの連携(地域の多様な主体の参画) | 19 |
| 4.自律的好循環の形成 | 20 |
| 5.地方創生・地域活性化への貢献 | 20 |

※記載例

(社会)

| ゴール、 ターゲット番号 | KPI | |
|--|---------------------------------------|-------------------------------------|
|  ゴール: 3 ターゲット: 3. 1、3. 2、 3. a | 指標: 健康寿命の増進 | |
| | 現在(〇年〇月): 男性:〇〇. 〇〇年 女性:〇〇. 〇〇年 | 2030 年: 男性:〇〇. 〇〇年 女性:〇〇. 〇〇年 |

〇〇〇〇や〇〇〇〇による高齢になっても活力ある生活が送れるように、市民の主体的な健康増進を推進し、〇〇〇〇〇〇という 2030 年のあるべき姿の実現を図る。

※1 つのゴール、ターゲットに対して複数のKPIを設定、または、複数のゴール、ターゲットに対して共通のKPIを設定する際の記載例

| ゴール、 ターゲット番号 | KPI | |
|---|-------------------|-----------------|
| アイコン をここに 貼り付け ゴール: 〇 ターゲット: 〇、〇〇、 | 指標: 〇〇〇〇 | |
| | 現在(〇年〇月): 〇〇〇〇 | 2030 年: 〇〇〇〇 |
| | 指標: 〇〇〇〇 | |
| | 現在(〇年〇月): 〇〇〇〇 | 2030 年: 〇〇〇〇 |
| ゴール、 ターゲット番号 | KPI | |
| アイコン をここに 貼り付け ゴール: 〇 ターゲット: 〇、〇〇、 | 指標: 〇〇〇〇 | |
| | 現在(〇年〇月): 〇〇〇〇 | 2030 年: 〇〇〇〇 |
| アイコン をここに 貼り付け ゴール: 〇 ターゲット: 〇、〇〇、 | | |
| | | |

(3) 多様なステークホルダーとの連携(地域の多様な主体の参画)

- ステークホルダーとの連携によるメリットを、域内外の主体(住民、企業・金融機関、教育・研究機関、NPO等)、国内の自治体、海外の主体に分類して、記載してください。
- 記載にあたっては、連携内容及びそのメリットについて、具体的に記載してください。
- 具体的な連携相手の名称及び連携内容が決まっている場合は、その詳細を記載してください。
- 記載するステークホルダーの数に制限は設けませんが、「住民」、「企業・金融機関」、「教育・研究機関」、「NPO等の団体」以外については、独自性のあるシンボリックなステークホルダーを記載することとし、過度に冗長な記載とならないよう留意してください。

| 団体・組織名等 | 事業における位置付け・役割 |
|---------|---------------|
| 〇〇〇〇 | 〇〇〇〇 |
| | |
| | |
| | |

